

# まちのわだい

## 平成22年度 ふれあい大学閉講式・大学祭

3月25日、氷川町文化センターにおいてふれあい大学閉講式・大学祭が行われ、小野一成 運営委員会副会長が開会を告げ、村崎厚美 運営委員会会長より挨拶がありました。

文集『年輪』発表では、西上宮の村内一誠さんから思いを綴った発表があり、続く謝辞を1班代表の永田俊雄さんが述べられました。

田上春喜 町老連交通安全推進部会代表による交通安全宣言の後、米沢徹 運営委員会副会長の閉会の辞で閉講式を終了しました。

午後から行われた「大学祭」では、歌や踊りなど13演目が披露され、会場全体に笑顔が溢れました。

また、85歳表彰では15名の方、大学無欠席表彰では、60名の方が表彰を受けました。

### ☆85歳表彰該当者(15名)

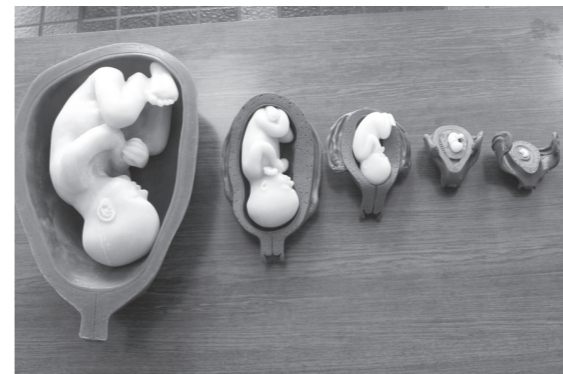
上村直人(高塚)・池田敦夫(高塚)・本田ヨシノ(大野)・稲田正篤(迫笹尾)・坂本武司(迫笹尾)・野中シズエ(迫笹尾)・野村タズ(高野道)・上野すみ子(高野道)・塚本シツエ(北野津)・三浦シゲ子(西野津)・前村安喜(鹿島)・中島澄子(鹿島)・上村ユリ子(若洲)・田中マツミ(椀)・松田利雄(早尾)



▲「仰げば尊し」を合唱

## 八代郡市医師会から寄贈いただきました

このたび、八代郡医師会(尾田正幸会長)と八代市医師会(宮村博文会長)から、本町の健康福祉事業に対し、①子宮と胎児ソフトモデル一式と②ゲームベスト40枚を寄贈いただくこととなり、目録が贈呈されました。乳幼児健診や健康教育等母子保健事業に活用させていただきます。



▲①子宮と胎児ソフトモデル



▲②ゲームベスト40枚

## 半畳畳を被災地へ発送

氷川町では、八代市・JAやつしろと連携し、東日本大震災の被災地に畳1万枚(町予算1,550万円)を送ろうと、八代地域の畳屋さん26軒に製作を依頼。4月18日に第1弾として、半畳畳2千枚を宮城県石巻市の要請により発送しました。

今後は、東松島市・女川町等からも要請があつており、準備ができ次第被災地に発送予定です。

発送した半畳畳は、避難所や仮設住宅等に使用されます。



▲八代畳で暖かさとおやすみを

## 町民文芸

### 短歌

- 陸橋の完成したる公園は  
健康器具を数多そなえる  
上高塚 桑原ゆき代
- 癒え難き病に耐えて炊事する  
妻に一助の食器洗い始む  
北野津 宮本 末秋
- 被災者へ手を伸べたくも速すぎて  
心ばかりの義援金送る  
西野津 古崎スエノ
- 夕暮れ時散歩しながら道端の  
犬のフンにはあきればかり  
新村 濱田 照昭
- 己より祖母の助けを求めたる  
被災せし孫の心根あはれ  
吉本 高橋 澄子
- 日だまりに黄色咲く菜の花と  
出会ふ楽しむ散歩の農路  
西野津 古崎 栄子
- 人間に与えし神の警告か  
世界各地の天災地変  
吉本 橋村 正之
- 三重の大惨害に悲痛こえ  
ケツパレ東北ガンバレ日本  
町 福田 一郎

### 俳句

- 何十年書きし日記に目をともし  
人生旅路幾山川か  
早尾 橋本ヨシエ
- 大惨事目の当りして声も無し  
テレビ食い入る正座して  
南鹿野 尾崎 京子
- 千年の周期で起きた大震災  
生きて試練の大和魂  
下高塚 竹中 力
- 花吹雪千里の山河越えゆかむ  
みちのくの闇いつ晴れるやら  
桜ヶ丘 宮崎敬四郎
- 英霊を祀る記念碑の桜花  
はなびら散らすときおりの風に  
東上宮 橋本万寿美
- 桜咲く子らの歓声公園に  
上高塚 桑原ゆき代
- この家の子の名めずらし初職  
北野津 宮本 末秋
- 乾杯は温茶で夜の桜かな  
西野津 古崎スエノ
- 大き鳥止めて菜の花折れもせず  
吉本 高橋 澄子
- 満開の桜のもとで笑む浮かぶ  
西野津 古崎 栄子
- 山門の青空高し木の芽風  
町 香山菊童子
- 若葉風ウオーク一入心地良し  
町 福田 一郎

- 苦難こえ心つなきて日は昇る  
南鹿野 尾崎 京子
  - 梅の香もゆさぶり散らす大地震  
下高塚 竹中 力
  - 延命の筒の水や百千鳥  
桜ヶ丘 宮崎敬四郎
  - 盟友いづこみちのくの闇朧月  
桜ヶ丘 吉田 照子
  - 花吹雪命の果ての乱れ舞ひ  
町 田中 澄子
  - 大手毬我とふれ合う庭の隅  
桜ヶ丘 宮崎トシ子
- 曾孫
- 北鹿野 早川 博
- 生れきて健やかなれば 元氣良く  
おっぱい呑んで ねんねして  
泣いて笑って うんこおしこすればよい  
ほかにする事 ありやしない
- なんでこんなに 可愛の  
か 似てると云われりや 尚可愛  
曾孫誉めるは 何とやら  
爺姥益々 元氣貰いて
- 宝子の健やか祈る 鯉幟り  
春風受けて 勇みて遊ぶ  
世の荒波に 負けないように  
永久の幸せ 集いて祝う
- 這へば立て 立てば歩めの爺々心  
よち、歩めば はら、と  
転びやせぬかと 手を添えりや  
我が身がよろ、 付いては行けぬ

### 青い山脈

替え歌  
吉本 橋村 正之

若く見せたい見られたい  
此の歳だから尚更よ  
昔少しは騒がれたもの  
張り合つて  
今日も娘と街へ出る

古い衣裳はさようなら  
最新モードよ今日は  
無理したけれどもその甲斐有つて  
注がれる  
熱い視線がたまらない

みんなそれぞれ若づくり  
あの人確か五十過ぎ  
それでもすごいわあれだけやれる  
わたしなど  
とても足許及ばない

父と母との渋い顔  
時代が違うの時代がね  
今は女は八十六よ  
わたしまだ  
やつと半分越えただけ

